

研究テーマ

ハザードマップへの既存住宅の耐震性能データの導入が避難路選択行動に与える影響

研究体制

ユニットリーダー
多田豊准教授

アドバイザー
福井助教

インスペクション機械化ユニット(A-stepトライアウト)

川畑准教授・岡本教授

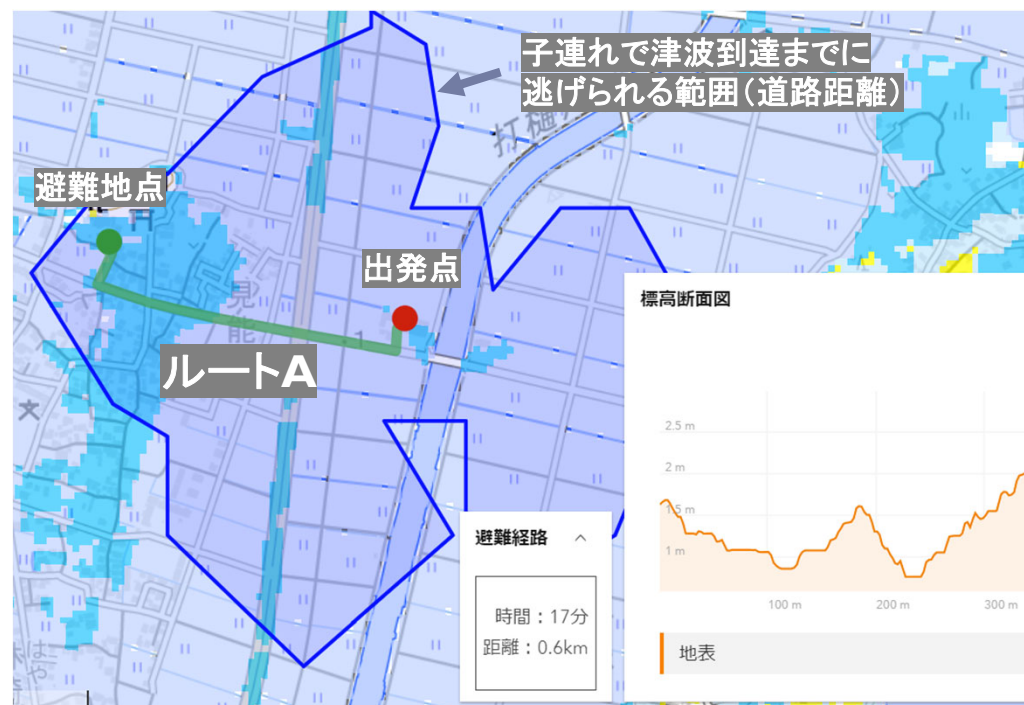
インスペクション脳波測定ユニット(科研費C)

加藤准教授・杉野教授

新しいハザードマップ研究ユニット(科研費C)

加藤准教授+防災科研 鈴木主任+塩崎研究員

ハザードマップへの避難経路情報の掲載（開発済）



現在、水害ハザードマップに記載されている情報は、浸水深等にとどまる。現在、ハザードマップにおいて津波到達までに避難できる範囲を道路距離にて表示し、最短距離を結ぶ(ルートA)システムについて開発済(防災科研との共同研究)。

本研究で取り組む内容



避難地点までより安全に避難できるルートを予測

避難にあたっては最短距離(ルートA)よりも、少し遠回りでもより安全な避難路(ルートB)を選択の方が生き残れる可能性が高まる場合もある。そこで、現在のシステムに、電柱、塀、住宅の倒壊を確率で予測し、より安全に避難できる避難経路を表示するシステムの開発を目指す。

関連研究○多田豊, 加藤研二, 杉野隆三郎: 既存住宅インスペクションの検査時に生じる「ゆらぎ」の解明と「制御法」の開発, 2022年度科学研究費助成事業基盤研究C, 2022年4月 - 2026年3月

○多田豊, 川畑成之, 岡本浩行: 木造住宅リフォーム前に実施するインスペクションの調査範囲拡大・精度均質化を目的とした複合的調査機能搭載型天井裏探査ロボットの開発, A-stepトライアウト, 2022年10月 - 2026年3月

○多田豊, 加藤研二, 鈴木進吾, 塩崎由人: 住宅地選択行動を適正化させるスマートハザードAPP活用に関する社会的期待発見研究, 防災科学技術研究所社会的期待発見研究, 2022年7月 - 2023年3月